

経営比較分析表（平成28年度決算）

千葉県 香取市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	43.34	3.98	4,644	

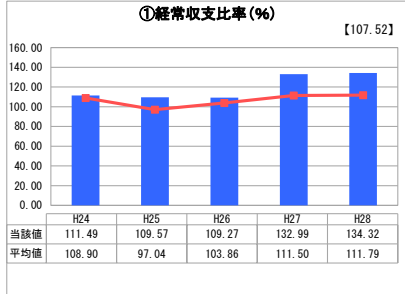
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,982	262.35	301.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,125	29.05	107.57

グラフ凡例

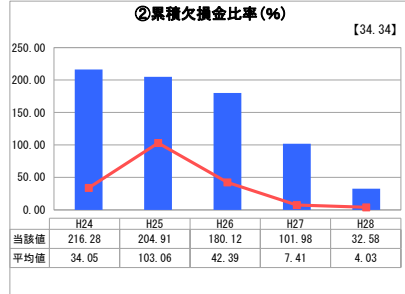
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成28年度全国平均

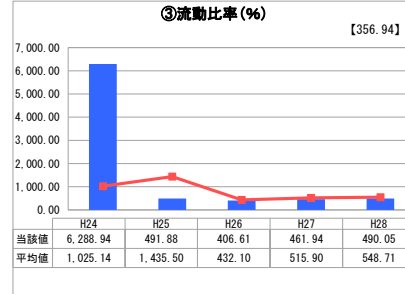
1. 経営の健全性・効率性



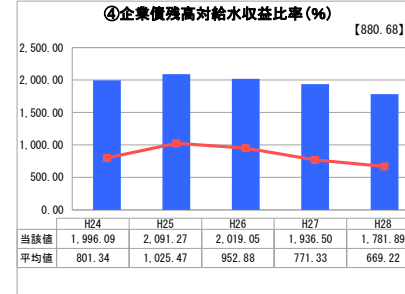
「経常損益」



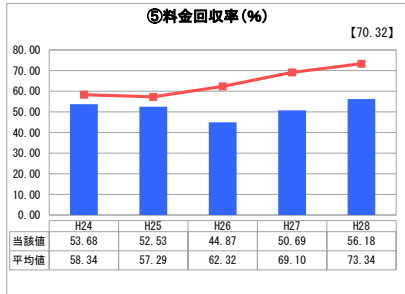
「累積欠損」



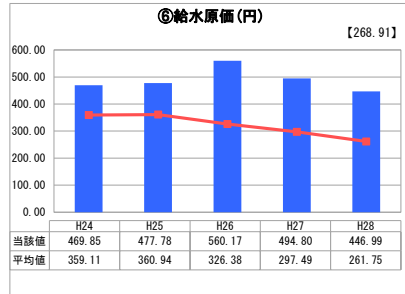
「支払能力」



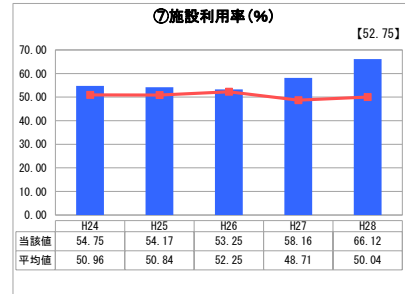
「債務残高」



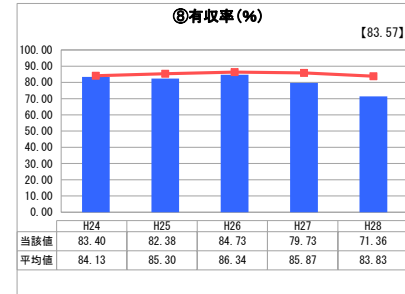
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

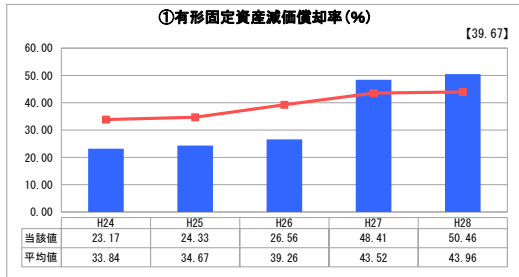


「施設の効率性」

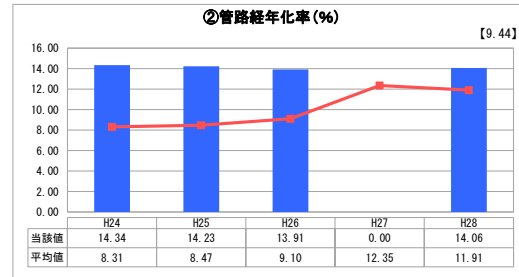


「供給した配水量の効率性」

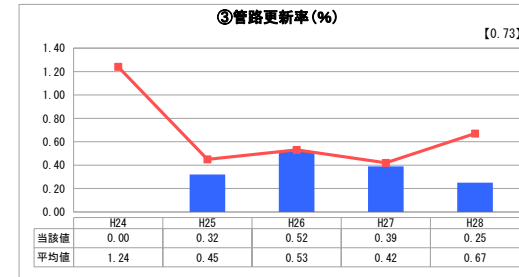
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率①は、平均を上回っており上昇傾向にある。累積欠損比率②は、平均を大幅に上回っていたが、毎年純利益を計上していることから、その数値は年々下降している。流動比率③は、新会計制度適用により、大幅に下がったものの、ほぼ平均並みであり、100%を上回っていることから、良好である。しかし、料金回収率⑤は昨年度よりも上昇したものの依然100%を下回っていることから、経営は、繰入金等の外部資金に依存している。

企業債残高対給水収益比率④は、地理的条件等の影響により、多額の設備投資を要することや、料金回収率⑤から見る通り、給水収益が低いことから、平均を大幅に上回る状況となっている。給水収益が低いことは、有収水量が少ないことであり、このことから、給水原価⑥も下降傾向ではあるが、平均を大幅に上回っている。

施設利用率⑦は、配水量が増加した結果、数値としては平均よりも高く、昨年度よりも上昇しており、良い結果となっているが、有収率⑧は、有収水量が増加したものの、漏水量等無収水量の増加のため平均を下回り、昨年度よりも減少した結果となっている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率①は、浄水場の新規建設や改良等の実施により、平均を下回っていた状況であったが、経年により平均を上回る結果となった。管路については管路経年率②が示すとおり、布設替の実施により老朽管が減少した結果となっていたが、布設替箇所が新たな経年該当となってきている。

管路更新率③については、当市の上水道が、東日本大震災による甚大な被害を被ったことから、上水道の管路復旧を主に行ってきたため、H24以前は0%となっているが、その後は徐々に更新を実施している。

全体総括

当市の簡易水道地区は、山間部が広がっていることや、そのために水道利用者が点在するなど、供給条件が非常に悪いため、設備投資が多額にならざるを得ず、また、井戸併用者が多く、有収水量が伸び悩んでいる。

現在も取り組んでいるところではあるが、今後は、更に加入促進を図るとともに、料金回収率を上昇させるため、適正な水道料金の見直しが必要となり、平成30年度に料金改定の検討を予定している。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。